

シ ラ バ ス



学校法人伊藤学園
専門学校甲府医療秘書学院

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
医学専門	医用英語	講義	前期	佐藤 弥	10	専攻

実務経験のある教員による授業科目	医師として病院に勤務しており、医療現場での実務経験、専門分野での知識をもとに、診療報酬請求の根拠となる診療記録によく記載される用語を中心に、講義を行います。
------------------	--

目的およびねらい	<p>診療記録に記載されている内容を理解し、専門分野におけるコミュニケーションに対応していくためには、日常使われている医学用語の知識が必須である。診療記録、各種医学書には、日本語以外に英語、独語、ラテン語などの記述も見られるが、一定の基本を理解すれば、さほど難解なものではない。ここでは、人体の構造・機能、症状、診断名、医療行為などの専門用語を修得し、診療記録を適切に理解できる知識を修得する。</p> <p>また、便利さゆえに氾濫しつつある略語を含む医療用語は、正しく使用され、理解されなければ 混乱を招き、情報交流の障害となる。とくにチーム医療の要となる診療録に記載されることの多い、よく使用される略語を含む医療用語を中心に理解する。</p>
----------	---

学習計画	<p>1 医学用語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○造語の基本 ○主な接頭語 ○主な接尾語 ○用語についての基本的な考え方 ○用語集 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器 ・呼吸器 ・消化器 ・泌尿器生殖器 ・代謝・内分泌 ・神経 ・感覚器 ・骨格系 ・皮膚・感染・寄生虫 ・精神医学 ・乳腺 ・妊娠・分娩・周産期 <p>2 医療用語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用語集 <ul style="list-style-type: none"> ・医学・医療 ・医療職 ・医療機関・施設 ・医療行為・業務 ・疾病・病態 ・診療情報管理・診療記録
------	---

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅱ
---------	--------------------------

評価方法	筆記試験・出席状況を総合的に評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
------	--

備考	
----	--

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
医学専門	臨床科目	講義	前期	佐藤 弥	10	専攻

実務経験のある教員による授業科目	医師として医療現場での実務経験、専門分野での知識をもとに、それぞれの専門分野の最新の医療について講義を行います。
------------------	--

目的およびねらい	<p>新生物（腫瘍）は身体のすべての臓器・組織に発生する疾患として、全診療科で扱われる重要な疾患群である。したがって、新生物の分類、診断法、治療法は、その性質、発生部位等から多岐にわたる。</p> <p>新生物の発生組織・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、転移性等新生物の概要を理解させるとともに、我が国における主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なICD分類に結びつく基本的知識を修得させることを目的とする。</p>
----------	--

学習計画	<p>1) 新生物</p> <p>① 新生物とは</p> <p>② 新生物の分類</p> <p>2) 悪性新生物</p> <p>① 口唇、口腔および咽頭の悪性新生物</p> <p>② 消化器の悪性新生物</p> <p>③ 呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物</p> <p>④ 骨および関節軟骨の悪性新生物</p> <p>⑤ 皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物</p> <p>⑥ 中皮および軟部組織の悪性新生物</p> <p>⑦ 乳房の悪性新生物</p> <p>⑧ 女性生殖器の悪性新生物</p> <p>⑨ 男性生殖器の悪性新生物</p> <p>⑩ 腎尿露の悪性新生物</p> <p>⑪ 眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物</p> <p>⑫ 甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物</p> <p>⑬ リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物</p> <p>⑭ 上皮内新生物</p> <p>⑮ 良性新生物</p>
------	--

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I
---------	---------------------------

評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
------	--

備考	
----	--

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
医療秘書専門	医療保険事務	演習	前期	齊藤 俊光	25	専攻

目的およびねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・主に病院における複雑な診療報酬請求事務の技術を身につける。 ・診療報酬請求事務能力認定試験（医科）に合格する。 ・医療秘書検定準1級に合格する。
学習計画	<p>1 診療報酬算定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診察料 ・医学管理等 ・在宅医療 ・投薬 ・注射 ・処置 ・リハビリテーション ・検査 ・病理診断 ・手術 ・麻酔 ・画像診断 ・精神科専門療法 ・放射線治療 ・入院 ・公費、点検 <p>2 診療報酬請求明細書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来カルテのレセプト作成 ・入院カルテのレセプト作成
教科書・参考書	<p>診療点数早見表／医学通信社 医療関連法の完全知識／医学通信社 入門診療報酬の請求／医学通信社 医療事務診療報酬請求事務能力手認定試験(医科)合格テキスト&問題集／JMAM</p>
評価方法	<p>筆記試験、実技試験、提出課題、出欠状況を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	医療管理各論Ⅱ (医療保険・介護保険制度)	講義	前期	遠藤智加子	20	専攻

目的およびねらい	<p>わが国の医療制度は、ますます複雑なものとなってきている。大きな特徴の一つである、国民皆保険制度を維持していくには、国民総医療費の抑制も含めた医療制度改革が求められ、特に診療報酬制度については、DPC制度導入をはじめ、大きな変化が続いている。診療報酬は、診断名や診療行為等が規則に基づいて適正に記録され、管理されていることが前提であり、このため診療情報管理において、診療情報管理士に期待がかかる場所である。本科目では、まず、社会保険制度としての医療保険・介護保険を理解し、診療報酬制度および診療報酬請求業務までを学ぶ。これまでの出来高請求から、診断群（DPC）を活用した包括評価請求まで、診療報酬請求業務全般を知る。それを通して、診療情報管理の重要性への理解を深める。</p>
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療保険制度 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療保険の種類と保険給付・保険外給付 ② わが国の診療報酬制度 ③ 保険診療と医療費の支払いの仕組み ④ 診療報酬の請求について 2 わが国の診断群分類 <ol style="list-style-type: none"> ① ケースミックス区分法と診断群分類 ② わが国の診断群分類誕生の背景 ③ DPC ④ DPCと包括評価 3 介護保険制度の概要
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
評価方法	<p>筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	医療管理各論Ⅲ (医療安全・医療の質管理)	講義	前期	遠藤智加子	20	専攻

目的およびねらい	<p>質の高い安全な医療を提供するためには、医療安全管理と医療の質管理は、極めて重要である。</p> <p>医療事故を未然に防止すること、事故後の適切な対応が医療安全活動の本質といわれ、2015年に始まった医療事故調査制度は医療の安全を確保するために医療事故の原因究明と再発防止を行うことを目的としている。医療の質管理も医療安全と密接に関連し、診療情報管理士は、それらの本質を理解することが求められ、期待される役割は、年々大きくなっている。</p> <p>さらには、DPC/PDPSやNDBなど診療報酬請求制度におけるデータ活用は、医療の質や経営の質のみならず病院の将来を決定する計画策定のための重要指標となる。</p> <p>本科目では、診療情報管理業務が拡大するなかで、必要な知識を深め、その対応力を身につける。</p>
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全管理（セーフティマネジメント） <ol style="list-style-type: none"> ① 医療安全概論 ② 医療におけるリスクマネジメント ③ ヒューマンエラー ④ 医療事故と医療過誤、医事紛争 2 医療の質管理 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療の質と保証 ② チーム医療における診療情報共有 ③ 医療の質マネジメントシステム ④ 医療の質の評価と公表 3 診療情報管理における診療報酬請求データの活用 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療マーケティング ② 診療情報管理におけるデータの活用 ③ 電子カルテデータ、オーダーデータと医事会計データ ④ 診療情報管理データと医事会計データ
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
評価方法	<p>筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	保健医療情報学	講義	前期	矢野 泰宏	10	専攻

目的およびねらい	<p>保健医療情報学とは、情報通信技術（ICT）の保健医療分野への利活用するための学問である。</p> <p>ICT進展は、社会を変革しつつある。保健医療分野についても同様であり、この分野へのICTの応用、すなわち保健医療の情報化がもたらした効果は、極めて大きなものがある。今世紀に入り、診療情報の電子化はますます進展し、医療機関内の情報化から地域医療の情報化へ、また、医療のみならず、保健・医療・介護・福祉分野間のICTによる情報的連携が実現しつつある。</p> <p>このような時代の診療情報管理士には、ICTを活用して有効かつ的確に診療情報を管理・二次利用できる能力が必要とされる。本科目では、保健医療情報の情報科学的認識、保健医療の情報化の動向、医療情報システムの実際、医療情報の標準化の動向、診療情報のセキュリティ管理、個人情報保護の方法などを身につける。ICTを活用した的確な診療情報管理がいかに保健医療の質の向上に貢献し得るかを知る。</p>
----------	--

学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療情報学とは <ol style="list-style-type: none"> ①情報の概念 ②保健医療情報学とは ③保健医療情報学と診療情報管理士 2 医療情報の特徴と種類 <ol style="list-style-type: none"> ①医療情報と診療情報 ②診療情報の種類と特性 ③診療情報の一次利用と二次利用 3 行政が進める保健医療の情報化政策 <ol style="list-style-type: none"> ①保健医療の情報化政策の歴史と関連法令 ②今後の方向性 4 医療情報システム <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;"> <ol style="list-style-type: none"> ①医療情報システムとは ②病院情報システム概論 ③部門の業務を支える情報システム </td> <td style="width: 40%;"> <ol style="list-style-type: none"> ④オーダーエントリーシステム ⑤電子カルテシステム ⑥地域医療情報システム </td> </tr> </table> 5 診療情報の二次利用 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;"> <ol style="list-style-type: none"> ①データウェアハウス ②医療ビッグデータ ③治験 </td> <td style="width: 40%;"> <ol style="list-style-type: none"> ④次世代医療基盤法の成立 ⑤診療情報管理士の役割 </td> </tr> </table> 6 個人が管理する保健医療記録 <ol style="list-style-type: none"> ①EHRとPHR ②実装の動向 7 医療情報の標準化 <ol style="list-style-type: none"> ①標準化の枠組み ②医療情報の伝達・交換のための標準化 ③医療情報分野における用語・コードの標準化 ④ICD10対応標準病名マスタ ⑤保健医療情報分野の標準規格 8 情報セキュリティ <ol style="list-style-type: none"> ①診療情報の安全管理 ②医療情報システムにおけるセキュリティ対策 ③医療情報システムの安全管理に関するガイドライン ④医療情報システムの安全管理 ⑤診療情報管理士として実践すべき事項 9 保健医療の情報化のこれから 	<ol style="list-style-type: none"> ①医療情報システムとは ②病院情報システム概論 ③部門の業務を支える情報システム 	<ol style="list-style-type: none"> ④オーダーエントリーシステム ⑤電子カルテシステム ⑥地域医療情報システム 	<ol style="list-style-type: none"> ①データウェアハウス ②医療ビッグデータ ③治験 	<ol style="list-style-type: none"> ④次世代医療基盤法の成立 ⑤診療情報管理士の役割
<ol style="list-style-type: none"> ①医療情報システムとは ②病院情報システム概論 ③部門の業務を支える情報システム 	<ol style="list-style-type: none"> ④オーダーエントリーシステム ⑤電子カルテシステム ⑥地域医療情報システム 				
<ol style="list-style-type: none"> ①データウェアハウス ②医療ビッグデータ ③治験 	<ol style="list-style-type: none"> ④次世代医療基盤法の成立 ⑤診療情報管理士の役割 				

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
---------	--------------------------

評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
------	--

備考	
----	--

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
診療情報管理士	医療統計Ⅰ (統計理論)	講義	前期	佐藤 弥	10	専攻

実務経験のある教員による授業科目	医師としての業務以外に、診療情報管理士として大学病院の経営管理部長を兼任しており、医療現場での実務経験、専門分野での知識をもとに統計理論について講義を行います。
------------------	--

目的およびねらい	医療における意志決定は、診療情報に基づいて行われる。診療情報管理士は、診療記録の管理だけではなく、診療記録に含まれる診療情報を活用し、医療施設、医療職、患者、さらに医療政策を支援し、医療の質向上に寄与することが求められている。そこで、本科目では、診療情報を活用するための基盤として、統計処理の基本知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学ぶ。また、診療情報管理士に求められる診療情報のクオリティマネジメントの考え方を身につける。
----------	--

学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 統計的方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 変数の種類 2 データの要約(記述統計学の方法) <ol style="list-style-type: none"> ① 度数分布表とヒストグラム ② 分布の中心を表す代表値 ③ 分布のばらつきを示す散布度 ④ 記述統計量の使い分け 3 統計学的推測の基礎 <ol style="list-style-type: none"> ① 母集団と標本の考え方 ② 母集団の特徴に関する記述 ③ 正規分布 ④ 母平均の区間推定 4 統計的仮説検定 <ol style="list-style-type: none"> ① 統計的仮説検定の考え方 ② 統計的仮説検定の手順 5 仮説検定に伴う2種類の誤り 6 よく使う検定手法 <ol style="list-style-type: none"> ① 2群の平均値の差の検定 ① 割合の差の検定 7 2つの量的変数の関係
---------	--

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
---------	--------------------------

評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
------	--

備 考	
-----	--

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
診療情報管理士	医療統計Ⅱ (病院統計・疾病統計)	講義	前期	佐藤 弥	25	専攻

実務経験のある教員による授業科目	医師としての業務以外に、診療情報管理士として大学病院の経営管理部長を兼任しており、医療現場での実務経験、専門分野での知識をもとに病院統計および疾病統計について講義を行います。
------------------	---

目的およびねらい	本科目では、医療統計Ⅰで学んだ統計理論に続いて、具体的に求められる成果を理解し、診療情報管理士に必要な、病院統計および疾病統計の知識を身につける。情報化の手段として基本的なグラフ表現と実際に求められる病院統計の手法を学ぶほか、単なるテクニカルな面に終わることなく、データを扱う上での研究方法や倫理を理解する。
----------	--

学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 データのグラフ表現 <ol style="list-style-type: none"> ① データの視覚化 ② 各種のグラフとその用途 2 病院の統計資料 <ol style="list-style-type: none"> ① 病院統計作成とその意義 ② 主な統計調査と評価指標 ③ 主な医療評価指標 ④ 経営管理指標 3 臨床研究の主な手法と医学系研究に関する倫理指針 <ol style="list-style-type: none"> ① コホート研究とケースコントロール（症例対照）研究 ② 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
---------	---

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
---------	--------------------------

評 価 方 法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
---------	--

備 考	
-----	--

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	診療情報管理 I (法令・諸規則)	講義	前期	遠藤智加子	25	専攻

目的およびねらい	<p>診療情報管理を実施するための基盤として、診療情報の重要性を理解し、診療情報を適切に取り扱い、責任ある診療情報管理を行う能力を身につける。</p> <p>本科目では、診療情報管理の意義と役割について系統的に学習するとともに、診療情報管理に関わる法令や諸規則を含め、診療情報の記録方法が機能的にどのような構成やルールをとっているか理解する。</p>
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療情報管理の意義と役割 <ol style="list-style-type: none"> ① 用語の定義 ② 診療記録の価値 ③ 診療情報管理の役割 2 診療情報管理の歴史 <ol style="list-style-type: none"> ① 診療記録のルーツ ② 諸外国における診療情報管理 ③ わが国における診療情報管理 3 診療情報管理と法規等 <ol style="list-style-type: none"> ① 診療記録の記載と保存についての法規 ② 診療記録の電子化に関する法規 ③ 診療記録の提示に関する法規 ④ 医療事故にともなう法的責任 ⑤ 診療情報の守秘に関する法規 ⑥ 個人情報の保護に関する法律 ⑦ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス ⑧ 個人情報保護法と厚生労働省のガイダンスに基づく病院の対応 ⑨ 診療情報の提供等に関する指針 4 診療記録の記載方式 <ol style="list-style-type: none"> ① POS ② フォーカスチャータリング ③ クリニカル・パス 5 関連法規 <ol style="list-style-type: none"> ① 診療記録の記載方法 ② 診療録の基本的な記載事項 ③ 診療記録の種類
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ 診療情報管理士業務指針（日本診療情報管理学会）
評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	診療情報管理Ⅱ (診療情報管理士の実務)	講義	前期	遠藤智加子	20	専攻

目的およびねらい	診療情報管理士の専門性について理解する。医療に貢献する診療情報管理を実践していくための能力の基盤を身につける。診療情報管理を実践する場で容易に想起され、応用可能な基礎知識を修得する
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療情報管理士について <ol style="list-style-type: none"> ① 診療情報管理士とは何か ② 診療情報管理士の業務指針 2 診療情報管理士に求められる資質 <ol style="list-style-type: none"> ① 知識と技能 ② 視点 3 診療情報管理士の基本業務 <ol style="list-style-type: none"> ① 診療情報を体系的・一元的に管理する業務 ② 診療情報を安全に管理する業務 ③ 診療情報を点検する業務 ④ 診療情報を有効に活用する業務 ⑤ 診療情報を提供する業務 ⑥ 統計業務 4 個人情報保護の視点からの保管管理 5 紙カルテ運用における診療情報管理 <ol style="list-style-type: none"> ① ナンバリング(番号法) ② ファイリング(保管法) ③ 診療記録の保存期間と保存方法 ④ パージング(インアクティブファイルへの移行) ⑤ 紙カルテの管理方式 ⑥ 紙カルテの貸出管理 ⑦ 紙カルテの回収 ⑧ 紙カルテの記録内容の点検 6 電子カルテ運用における診療情報管理 <ol style="list-style-type: none"> ① 電子カルテの運用 ② 電子カルテに記載する場所の明確化 ③ 紙媒体に作成された情報の保存 ④ 診療情報の点検 ⑤ 個人情報保護への対応
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ
評価方法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備考	

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
診療情報管理士	診療情報管理Ⅲ (DPC・医師事務作業補助者・ がん登録の実務)	講義	前期	遠藤智加子	20	専攻

目的およびねらい	診療情報管理士が実務として関わる事が非常に多い、DPC業務や医師事務作業補助者業務、がん登録業務等について、実際に実務上求められることを踏まえて、必要とされる知識・技能を修得する。
学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療情報管理士について <ol style="list-style-type: none"> ① DPC制度と実務 ② DPCと診療情報管理士(診療情報管理部門)との関わり ③ 影響調査(基礎調査)と診療情報管理士 ④ 病院指標の公開と診療情報管理士 ⑤ データ精度と診療情報管理士 ⑥ DPCデータの活用 2 医師事務作業補助者業務について <ol style="list-style-type: none"> ① 医師事務作業補助者の業務と体制 ② 医師事務作業補助者と診療情報管理士の関わり 3 がん登録の実務について <ol style="list-style-type: none"> ① わが国のがん対策とがん登録 ② がん登録 4 レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)について
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ
評 価 方 法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備 考	

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
診療情報管理士	国際統計分類 I	講義	前期	遠藤智加子	60	専攻

目的およびねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1 わが国の人口動態統計のしくみと意義を理解する。 2 人口動態統計に用いられる国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、その歴史と現在の状況を理解する。 3 国際統計分類群（ファミリー）に属するその他の分類体系についての理解を深め、健康情報に関する幅広いコード体系についての意義と問題点を理解する。 4 わが国に導入されているDPC/PDPS制度におけるICDの利用について理解する。
学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際疾病分類論 <ol style="list-style-type: none"> ① わが国の人口動態統計 ② 国際疾病分類（ICD）の歴史 ③ 国際疾病分類（ICD）の現状 ④ 国際疾病分類（ICD）の構造 2 国際統計分類ファミリー論 <ol style="list-style-type: none"> ① 国際統計分類ファミリー（WHO-FIC）の概念と構想 ② 国際統計分類ファミリーに含まれる分類 3 国際疾病分類の利用 <ol style="list-style-type: none"> ① 原死因選択ルール ② 主要病態のコーディングと再選択ルール ③ 診断群分類（DPC）における国際疾病分類（ICD）の利用 ④ ICDを用いるうえでの注意点
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ
評 価 方 法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
備 考	

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
診療情報管理士	国際統計分類Ⅱ	演習	通年	佐藤 弥	180	専攻

実務経験のある教員による授業科目	医師としての業務以外に、診療情報管理士として大学病院の経営管理部長を兼任しており、医療現場での実務経験、専門分野での知識をもとにICD-10のルールや診療記録からのコーディングについて指導します。
------------------	--

目的およびねらい	人体構造・機能論、臨床医学総論・各論等で学習した知識を生かし、国際統計分類Ⅰの学習と関連付けながら、ICD-10の各章に沿った疾病分類体系を学習し、その特徴を踏まえて統計として正しい分類ができるよう理解を深める。また、退院時要約や死亡診断書等を用いて診療記録の記載内容を把握し、主傷病等の診断名および原死因の統計上必要な分類コードを正確に選択できる知識を修得する。
----------	--

学 習 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 各章の分類体系およびその特徴と留意事項の理解 2 分類コードの実際 <ol style="list-style-type: none"> ①退院時要約や死亡診断書などによる総合学習
---------	---

教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ ICD-10（2013年版） 第1巻（内容例示表） ICD-10（2013年版） 第3巻（索引表） ICD-O 第3版
---------	---

評 価 方 法	筆記試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満
---------	--

備 考	
-----	--

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	病院実習	実習	後期	医療機関（病院）	192	専攻

実務経験のある教員による授業科目	この科目は、学校外でのインターンシップを授業の中心に位置づけ、座学の内容と就業体験を統合し、生徒にさらなる学習と就業への方向性をつかんでもらう。また実習を通じて、生徒に職業適性や将来設計について主体的に考えさせる。
------------------	---

目的およびねらい	<p>病院の基本的機能の理解、入院および外来診療録の具体的管理状況の理解、診療録管理部門の病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリー等がどのようなものかを具体的に理解する。</p> <p>診療録の量的・質的点検の方法および編綴の実習、記録の収納、検索、貸出業務を実習する。傷病名、手術・処置等のコーディングの補助業務を実習する。</p> <p>さらに実務で求められると考えられるDPC業務、がん登録業務、医師事務作業補助業務を実習する。</p>
----------	--

学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 病院の基本的機能 2 診療記録の管理 3 診療情報管理部門の機能 4 統計業務の理解 5 ICDコーディング 6 DPCコーディング 7 がん登録 8 医師事務作業補助業務
------	---

教科書・参考書	<p>日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ ICD-10（2013年版） 第1巻（内容例示表） ICD-10（2013年版） 第3巻（索引表） ICD-O 第3版</p>
---------	--

評価方法	<p>出席状況・提出物・実習先評価を総合して評価する。60点以上が合格。</p> <p>優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
------	--

備考	
----	--

教 科	科 目 名	形 態	開講学期	担 当 教 員	時 間 数	履 修 年 次
	医療概論	講義			35	

目的およびねらい	<p>医学を社会的に適応させてはじめて医療が成り立つものである。したがって、医学と医療に関する歴史の変遷を知り、医療の現状を理解する。また、医療成立の原則と、医の倫理に関して理解する。</p> <p>一方、医療は母体となる社会構造(社会資源)を基礎として 成り立っている。したがって、社会保障制度の枠組みである「所得保障」、「医療保障」、「公衆衛生」、「社会福祉」の原則と実態などを多方面から分析し、社会規範である関連法規の知識を得て、医療の社会的役割を総合的に理解する。</p>
学 習 計 画	<p>医療・保健・福祉基礎教科の「健康とは、疾病とは」「医の倫理」を履修することにより、本科目を履修したこととする。</p>
教科書・参考書	<p>日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I</p> <p>医療秘書講座1 健康とは、疾病とは／患者論と医の倫理（メヂカルフレンド社）</p>
評 価 方 法	<p>「健康とは、疾病とは」「医の倫理」の成績により評価する。</p>
備 考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	人体構造・機能論	講義			25	

目的およびねらい	<p>人体の基本的な仕組みを系統的に理解させること(解剖学、組織学)と、その働き(生理学)を学び、生命の「いとなみ」の基本を理解する。また、器官・臓器が構成要素である、どのような細胞、組織から成り立ち、いかに他の器官と連携をもち、機能的にどのような連携作業をして、人体としてのいとなみに関わっているのかを理解する。さらに、からだの全体的イメージを確立する。これらの知識は、診療記録に記載されている内容の基本的な人体の部位、診断名の理解に必須であり、疾病の機序や病態の理解、さらには実際に行われる治療手段の理解にも役立つ。</p>
学習計画	<p>医療・保健・福祉基礎教科の「からだの構造と機能」を履修することにより、本科目を履修したこととする。</p>
教科書・参考書	<p>日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I 医療秘書講座2 からだの構造と機能／臨床検査と薬の知識（メヂカルフレンド社）</p>
評価方法	<p>「からだの構造と機能」の成績により評価する。</p>
備考	

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
	臨床医学総論 (先天性疾患、外因性傷病等含む)	講義			25	

目的およびねらい	<p>医学は人体の仕組みを明らかにし、病気の原因、病態、診断、治療、予防、予後などについて研究する学問であり、基礎医学と臨床医学とに分かれている。この両者は渾然一体になって人類の福祉に貢献しているが、ここでは最低限必要な医学用語、検査用語などを含め、臨床医学の概念を把握する。</p> <p>診断には一般的に問診、理学的診察、一般検査（基本検査）、特殊検査法（超音波検査、CT、MRI、内視鏡など）から成り立っている。治療法では侵襲的治療と非侵襲的治療、原因療法と対症療法あるいは保存的療法、観血的療法などがある。</p> <p>なお、先天性疾患、外因性傷病等を含む。</p>
学 習 計 画	医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I
評 価 方 法	「臨床科目」の成績により評価する。
備 考	

教 科	科 目 名	形態	開講学期	担 当 教 員	時間数	履修年次
	臨床医学各論 I (感染症および寄生虫症)	講義			25	

目的およびねらい	<p>臨床医学各論では、原因別、部位別等に分類されている各疾病について、その分類の意味とその原因、症状、所見、診断根拠、治療法などの概要を理解し、疾病の適切な ICDコーディングにつながる基礎知識を修得する。</p> <p>ここでは、感染のメカニズム、病原微生物についての知識、また感染防御についての知識を修得し、各感染症の特徴、症状・所見、診断法、治療などの知識を深め、感染症患者の各種診療記録の内容を理解する。</p>
学 習 計 画	<p>医療・保健・福祉基礎教科「健康とは疾病とは」、医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。</p>
教科書・参考書	<p>日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理 I</p>
評 価 方 法	<p>「健康とは、疾病とは」「臨床科目」の成績により評価する。</p>
備 考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅱ (新生物)	講義			25	

目的およびねらい	<p>新生物（腫瘍）は身体のすべての臓器・組織に発生する疾患として、全診療科で扱われる重要な疾患群である。したがって、新生物の分類、診断法、治療法は、その性質、発生部位等から多岐にわたる。</p> <p>新生物の発生組織・臓器、良性・悪性、原発性、続発性、転移性等新生物の概要を理解するとともに、我が国における主要な新生物を中心に、新生物の多彩な診断法、治療法を学び、適切なICD分類に結びつく基本的知識を修得する。</p>
学習計画	医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ
評価方法	「臨床科目」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅲ (血液・代謝・内分泌等)	講義			25	

目的およびねらい	血液・造血器、栄養・代謝、内分泌等の障害により、病態が全身に関わる各疾病について、それらの特徴と症状・所見、診断法、治療法等を学ぶ。 膠原病、リウマチ疾患については、ICD分類上は主に循環器疾患や結合織疾患として分類されているが、重要な全身疾患群としてここで基本的知識を修得する。
学習計画	医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ
評価方法	「臨床科目」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅳ (精神・脳神経・感覚器等)	講義			25	

目的およびねらい	脳と神経系の疾患、眼、耳、「精神および行動」の障害など感覚器系疾患について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。
学習計画	医療・保健・福祉基礎教科の「からだの構造と機能」、医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 医療秘書講座2 からだの構造と機能／臨床検査と薬の知識（メヂカルフレンド社）
評価方法	「からだの構造と機能」「臨床科目」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅴ (循環器・呼吸器系)	講義			25	

目的およびねらい	生命の維持に直接関わる循環器・呼吸器系の疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。
学習計画	医学専門教科の「臨床科目」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ
評価方法	「臨床科目」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅵ (消化器・泌尿器系)	講義			25	

目的およびねらい	腹部に位置する各種臓器(消化器系、泌尿器系)、疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。
学習計画	医療・保健・福祉基礎教科の「からだの構造と機能」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 医療秘書講座2 からだの構造と機能／臨床検査と薬の知識（メヂカルフレンド社）
評価方法	「からだの構造と機能」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅶ (周産期系)	講義			25	

目的およびねらい	<p>周産期疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を修得する。</p> <p>また、“妊娠の成立”という現象について、妊娠から母体の変化、胎児の発育、分娩までの基本を学び、さらに、周産期の障害と感染症、胎児・新生児に関わる障害などを理解するとともに、ICD分類との関係を把握する。</p>
学習計画	<p>医療・保健・福祉基礎教科の「からだの構造と機能」を履修することにより、本科目を履修したこととする。</p>
教科書・参考書	<p>日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ</p> <p>医療秘書講座2 からだの構造と機能／臨床検査と薬の知識（メヂカルフレンド社）</p>
評価方法	<p>「からだの構造と機能」の成績により評価する。</p>
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	臨床医学各論Ⅷ (皮膚・筋骨格系等)	講義			25	

目的およびねらい	身体の形態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚などの疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を取得する。
学習計画	医療・保健・福祉基礎教科の「からだの構造と機能」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 医療秘書講座2 からだの構造と機能／臨床検査と薬の知識（メヂカルフレンド社）
評価方法	「からだの構造と機能」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	医学・医療用語	講義			25	

目的およびねらい	<p>診療記録に記載されている内容を理解し、専門分野におけるコミュニケーションに対応していくためには、日常使われている医学用語の知識が必須である。診療記録、各種医学書には、日本語以外に英語、独語、ラテン語などの記述も見られるが、一定の基本を理解すれば、さほど難解なものではない。ここでは、人体の構造・機能、症状、診断名、医療行為などの専門用語を修得し、診療記録を適切に理解できる知識を修得する。</p> <p>また、便利さゆえに氾濫しつづける略語を含む医療用語は、正しく使用され、理解されなければ 混乱を招き、情報交流の障害となる。ここでは、とくにチーム医療の要となる診療録に記載されることの多い、よく使用される略語を含む医療用語を中心に理解する。身体の状態、運動器に関わる骨、筋肉、関節、皮膚などの疾病について、その特徴、症状・所見、診断法、治療法の概要を学び、各種診療記録の記載などを理解し、適切な病歴診断名につなげる知識を取得する。</p>
学習計画	医学専門教科の「医用英語」を履修することにより、本科目を履修したこととする。
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅱ
評価方法	「医用英語」の成績により評価する。
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
診療情報管理士	医療管理総論	講義	前期	遠藤智加子	25	専攻

目的およびねらい	<p>医療の成立における社会資源の必要性を理解し、医療関連職種である「人的資源」、医療施設や設備、機器、薬剤、医療資材などの「物的資源」、医療の経済的基盤である医療保険制度を中心とした「財的資源」を具体的に理解する。医療の需要と供給の関係は、患者と医師の人間関係の理解のうえに成り立っており、基盤となる社会体制における基本的事項の理解が必要である。そこで、わが国の医療提供システムの特徴を知り、特徴的なわが国の医療保険制度を理解し、医療の実務に対応する為の知識を身につける。</p>
学習計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療資源 <ol style="list-style-type: none"> ① 物的資源「もの」 ② 人的資源（人） ③ 財的資源（お金） ④ 情報資源 2 日本の医療制度 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療保障 ② 医療制度の詳細 ③ 国民医療費の現状と将来 3 医療の需要と供給 <ol style="list-style-type: none"> ① 人口の推移 ② 医療需要・医療供給 ③ 顕在需要と潜在需要 4 地域医療（医療供給体制） <ol style="list-style-type: none"> ① 地域医療 ② 医療の提供構造 ③ 医療計画 5 医療関連の法規定 <ol style="list-style-type: none"> ① 医療と保健衛生活動に関する法規 ② 社会保障や保健および福祉に関する法規 ③ 医療費支払い保険制度に関する法規 ④ その他、病院の医療活動に関する主な法規 ⑤ 健康に関する主な法規 ⑥ 感染症法 ⑦ 医薬品などに関する法規 ⑧ 災害時に適用される法規 ⑨ 職員に関する法規 ⑩ がん対策基本法・がん対策推進基本計画（2次） ⑪ 個人情報の保護に関する法律と指針（ガイドライン）
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
評価方法	<p>期末試験（筆記試験）試験・出席状況を総合して評価する。60点以上が合格。 優：100～80、良：79～70、可：69～60、不可：60未満</p>
備考	

教科	科目名	形態	開講学期	担当教員	時間数	履修年次
	医療管理各論Ⅰ (病院管理)	講義	前期	遠藤智加子	25	専攻

目的およびねらい	<p>病院は医療の実践の場である。施設・機器・構成員そして患者を含めた利用者など、全てが有機的に機能してこそ、医療が有効に実践され、医療の質の向上と経営の質の向上というテーマは、病院 運営において車の両輪にたとえられる大命題となっている。</p> <p>本科目では、その病院を的確に維持、運営していく上で重要な、病院の経営管理をはじめとする 基礎的な知識を身につける。</p> <p>まず、病院という組織が、その使命を達成するために、そしてそれを維持していくためには、しっかりとした経営管理が必要であり、その組織が医療機関としての機能を果たすためには、様々な医療の専門職を有効に結びつけるための医療管理が必要である。</p> <p>特に近年では、高度化、複雑化する医療の在り方が問われ、チーム医療を中心とした他職種協働の医療提供体制が注目されている。診療情報管理士として病院運営に関わっていく上で、患者が安心して受診し、地域に必要とされる医療機能を維持するために、これらのことを十分に理解する。特に医療従事者としての言葉づかいや態度の工夫のしかたを身につける。</p>
学習計画	<p>1 病院の経営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 病院経営管理 ② プロセス(工程)とは ③ 組織と機能 ④ 管理と組織 ⑤ 財務・経営管理 ⑥ 人事・労務管理 ⑦ 施設管理 <p>2 医療管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療管理 ② 診療部門 ③ 看護部門 ④ 医療技術部門・診療協力部門・メディカルスタッフ部門 ⑤ 教育研究部門 ⑥ 診療情報管理部門 ⑦ スタッフ機能事務部門 ⑧ ライン機能事務部門 ⑨ 施設・機器維持管理部門 ⑩ 労働安全衛生・環境衛生管理部門 ⑪ ハウスキーピング部門 <p>3 チーム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ① チーム医療とは ② チーム医療の主な活動 ③ チーム医療の推進
教科書・参考書	日本病院会診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ
評価方法	筆記試験・実技試験（前後期）・提出課題・出席状況を総合して評価する。
備考	

